

■多田駿 ただはやお 新体詩抄・・1882＝	陸軍軍人。 中国通として日中戦争の不拡大派の中心となり、様々な活動を試みるも、東条英機により排除された。
	宮城県仙台で、旧仙台藩士で電信局関係の多田継の子に生まれる。
	父の転勤に従い、岩手県宮古ほか、何度か引っ越し、
	腕白であったが、
帝国憲法発布 1889＝7歳：	
足尾鉋毒始・1891＝ 9歳 ：	東京で電信局長を務めていた父が秋田県の能代郵便局長になったのを機に、仙台の母方の祖父で、維新前には人格者の郡奉行で知られていた境野明冠の家に行き、木町通り小学校3年に転入、
日清戦争始 ・1894＝12歳：	高等2年まで過し。強く感化されたという。父の仕事の関係で、電信学校に入るが、
八幡製鉄始・1897＝15歳：	開校まもない仙台陸軍地方幼年学校に入学。学業のほか、陽明学を研究、早くも逸材ぶりを発揮、 同校には、2期生の板垣征四郎・土肥原賢二、6期生の石原莞爾ら、のちに歴史を刻む軍人も学んでいる。
ピノチオ/国産化・1900＝ 18歳 ：	第一期で 卒業。
教科書疑獄・1902＝20歳：	陸軍士官学校に入り、砲兵科で学び、
日比谷公園・1903＝21歳：	卒業(第15期)。
日露戦争始 ・1904＝22歳：	陸軍砲兵少尉に任官、野砲兵第18連隊附(千葉県下志津)となり、 日露戦争に従軍、旅順攻囲戦が初陣となり、中国との縁の始まりになる。
日露戦争終 ・1905＝23歳：	帰還とともに、砲兵中尉に進級。陸軍士官学校生徒隊附、
韓国反日暴動 1907＝25歳：	野砲兵第十八連隊附、
伊藤博文暗殺 1909＝ 27歳 ：	陸軍砲工学校高等科を経て、
韓国併合・・1910＝28歳：	陸軍大学校に入校。
明治天皇没 ・1912＝30歳：	
大正政変・・1913＝31歳：	砲兵大尉に進級後、卒業(第25期)。野砲兵第18連隊中隊長となり、 士官学校同期河本大作の妹睦と結婚。
第一次大戦始 1914＝32歳：	参謀本部第三課に配属、
21ヶ条要求・1915＝33歳：	長男顕が誕生。 参謀本部部員として、中国に出張し、青島戦を調査。
ロシア革命 ・1917＝35歳：	参謀本部第四部で戦史編纂などするうち、 二男進が誕生。 *中華民国に招聘されて北京陸軍大学教官となり、大總統の最高軍事顧問青木宣純中将、坂西利八郎少将の補佐官を務め、中国人を見下すことない両将軍に感心、坂西の命で北満洲を視察し、弱い者イジメする日本人を一層嫌うようになった。
本格政党内閣1918＝ 36歳 ：	
ペキン条約 ・1919＝37歳：	*帰国して、砲兵少佐に進級後、陸軍大学校兵学教官となって、中国人留学生を受け持ち、家庭的な付き合 いまでして、本格的な“支那通”として知られるようになって行く、
大暴落・・・1920＝38歳：	三男光が誕生。
原敬首相暗殺 1921＝39歳：	
関東大震災 ・1923＝41歳：	砲兵中佐に進級。四谷の自宅を構えたところに、関東大震災があり罹災するも、近所の人の救済に走る。
護憲三派圧勝1924＝42歳：	日野戦砲兵学校研究部員となり、宇垣一成陸相の命で、戦勝国フランスを視察。
治安維持法・1925＝43歳：	野戦重砲兵第2連隊附(静岡県三島市)、
円本時代始・1926＝44歳：	長女多満子が誕生。参謀本部附となり、再び北京陸軍大学応聴教官となり、坂西を補佐。
金融恐慌・・1927＝ 45歳 ：	砲兵大佐に進級し、陸軍大学校教官。 「支那人1万人の捕虜を得た状況で如何に処理すべきか」との問題を出し、自らが用意していた模範解答「全員武装を解除した上で釈放、生業に就かしむるべし」だったという。
共産党事件・1928＝46歳：	野戦砲兵第4連隊長(大阪信太山)。この年、 義兄の河本大作大佐が張作霖爆殺事件を起こし、
世界恐慌 ・・1929＝47歳：	天皇から叱責された田中義一首相が退陣、直後に憤死してしまい、
海軍軍縮条約1930＝48歳：	第16師団(京都)の参謀長。 満洲に派遣され、幼年学校後輩で山形県鶴岡出身の石原莞爾と出会い、思想的に共鳴、同志ともいえる存在になって行くが、
満州事変 ・・1931＝49歳：	三度目の北京陸軍大学応聴教官。 石原莞爾とやはり後輩の板垣征四郎らが首謀して満州事変が勃発、
五一五事件・1932＝50歳：	*関東軍司令官本庄繁中将のもと、石原莞爾の推薦で、満洲国軍政部最高顧問となり、新設された満洲国軍の育成を任される。陸軍少将に進級。やはり中国通の大物佐々木到一大佐が加わり、互いに支えあう。
国際連盟脱退1933＝51歳：	関東軍参謀部発行の冊子「建設途上の満州国」に、満州軍の現況について寄稿。ラストエンペラー溥儀とも会い、男装の麗人川島芳子との噂まで出たりするが、
帝人疑獄事件1934＝52歳：	帰国し、日野戦重砲兵第4旅団長(東京世田谷)。
芥川直木賞始1935＝53歳：	天津の支那駐屯軍司令官になった直後、「華北自治」声明を発表して中国側を刺激してしまい、その官邸に爆弾が投げ込まれ、中国人召使が負傷する事件などで、陸軍強硬派が巻き返す結果を招く。
二二六事件 ・1936＝ 54歳 ：	陸軍中將に進級。 「対支基礎的観念」を発表し、冀察政務委員会委員長宋哲元と防共協定を結んだ後、帰国。(香川善通寺)第11師団長を務める間、
日中戦争始 ・1937＝55歳：	盧溝橋事件が勃発、(今井清参謀次長が病気だったため)石原莞爾の推薦で(陸軍エリートのトップ)参謀次長となり、陸軍大学校校長を兼務。石原とともに戦線不拡大を主張するが、作戦部長だった石原は関東軍参謀副長へ転出させられる。蒋介石との講和のタイミングと見て、ドイツ仲介よる和平工作(トラウトマン和平工作)を展開。帰依していた良寛研究の第一人者相馬御風に手紙を送り、親交が始まる。
総動員+健保1938＝56歳：	*大本営政府連絡会議で、国民政府との和平交渉継続を強く主張するも退けられ、その翌日、近衛文麿が中華民国政府に対し「対手とせず」声明を発表して、それまでの努力は水泡に帰した。石原莞爾の処遇をめぐって陸軍次官東條英機と対立し、満洲牡丹江第三軍司令官へ左遷。
第二次大戦始1939＝57歳：	危惧していた日ソ衝突ノモンハン事件などで、天皇から叱責された板垣征四郎の後任陸相に決定するも、河本大作の義弟で、石原莞爾派のためか、天皇の同意が得られず、新設の北支那方面軍司令官となる。
大政翼賛会・1940＝58歳：	ドイツ驚勲章大十字章、功二級金鵄勲章。北京東亜新報に匿名で連載コラムを執筆。
日米開戦 ・・1941＝59歳：	陸軍大将に進級、軍事参議官となるが、首相となった東条により、在任2か月で予備役へ編入となり、
近代の超克・1942＝60歳：	館山に移住。帰依する良寛の書を読むなそ自適生活のなか、石原莞爾と親交を続け、
敗戦 ・・・1945＝ 63歳 ：	敗戦後、 A級戦犯の容疑で逮捕されるも、健康上の理由で収監は延期、戦争批判などの行動が評価され、衆議院予算委員会では反戦論者の一人として名が上げられ、
新憲法公布・1946＝64歳：	東京裁判には検察側証人として出廷したが、
極東裁判決・1948＝66歳：	胃癌のため没した。直後に、戦犯容疑は解除された。